

連合会だより 73号

平成 29 年度町田市町内会・自治会連合会 市政懇談会が 11 月 22 日に開催された。

町田市からは石阪市長はじめ、各部署の部長及び担当部長が出席。事前の要望に対する市の回答の要旨は次のとおり。

1 境川氾濫対策

昨年も要望があった、境川の神奈川県担当部分の治水対策での東京都と神奈川県の協議の状況について報告。本年 2/21 に市長と都知事の意見交換会で境川の整備促進を要請した。その結果、3/8 付で東京都知事名で神奈川県知事宛に整備促進の要望書を提出した。また、7 月には都と県の治水担当者間で協議した場でも整備促進を神奈川県にお願いしている。今後の見通しについて、神奈川県管理区域の上流部等は概ね 30mm/h の対応能力しか有しておらず、50mm/h 対応には概ね 30 年を要する整備計画である。しかし近年の 100mm/h を超える集中豪雨等の状況をみると早期整備が求められている。2016 年 12 月には神奈川県下水道部に対し、市下水道部より早期改修の要望書を提出している。年内には町田市長から神奈川県副知事及び相模原市副市長に対し、早期改修の申し入れを行うことにしている。



2 避難情報の伝達の実態調査について

防災情報の伝達について、市は防災行政無線や緊急速報メール配信等によってカバーしている。防災行政無線では窓の閉切りなどで限界があるが、緊急速報メールでは 10/22 の台風で夜中の 3 時頃にも関わらず、発令後に避難者が増えており、有効な手段と考えている。また緊急情報配信メールサービスでは緊急関連以外の情報も伝えているので是非登録して欲しい。防災無線の放送内容は 080-0800-5181 で聞くことができるので活用をお願いしたい。

浸水ハザードマップは東京都の都市型水害連絡会で公表した浸水予測区域を基にしているが 2m 以上

のより細かな情報は公表されていない。今後新たな浸水予測区域が公表されれば改訂する。水深区分に関わらず早めの避難を心がけて頂きたい。

3 消防署移転に伴う措置について

継続して東京消防庁と協議中。出張所の設置場所は町田駅中心市街地の公共施設再編計画と併せて検討中。救急車の待機施設についても具体的に検討中で、進展は今後も市政懇談会等の場で説明していく。



4 団地の集会所に対する耐震化補助について

住宅への耐震化補助は居住部分を対象にしている。マンションなどでも居住する棟が対象。集会所も耐震化して欲しいが、まずは居住部分を最優先していることを理解して頂きたい。

5 教習料金の補助金等支給措置の制度化

準中型免許の新設は、今後の消防団活動に影響があると認識している。町田市としては、本件は国の法律改正による全国的な問題で、国による財政的な支援が必要との意見を東京都を通して提出している。

第二部は市政全般に関し市長から話があった。

- ・境川の工事は構造的な問題がある。町田市も決して都に任せっぱなしにしている訳ではない。
 - ・税金の問題 ふるさと納税で町田市は 4 億の損失。
 - ・行政評価シートから学童保育、民間保育事業の報告。
 - ・オリンピック関連 自転車競技が町田を通過予定。
 - ・保育園 転入者が多く待機児童は減らない。
 - ・特別養護老人ホーム 町田市の施設に入れる。
- そのほかに清掃工場、南町田駅前開発、消防本署、モノレール延伸についても報告があった。

各要望に真摯な回答がなされ、また提案型の要望及び質疑応答もあり有意義な意見交換会でした。

(編集委員:鈴木 則夫)

忠生地域まちづくり

「バリューアッププラン」の実現へ

忠生地区では、今、町田リサイクル文化センターのごみ処理施設建替建設に伴い、忠生地域まちづくり「バリューアッププラン」の実現事業化が進められています。

このまちづくり計画の要望のきっかけは、4年前の2013年に町田市から現在地にごみの処理施設建替建設計画があり、施設整備については市が同年9月に市民協働により検討し進める、地元町内会・自治会長等参画の町田リサイクル文化センター周辺地区連絡会を設置したことに始まります。

地域周辺住民代表の町内会・自治会の会長にとって、また地元がこの先、30年～50年に亘り市民42万人のごみを受け続けていくことの重い負担を背負い込むつらい連絡会への参画でありました。

そこで、連絡会の会長は、市に対し施設整備だけでなく、地域貢献策として忠生地域のまちづくりをしてもらいたいとの切実な思いで、2014年2月に町田リサイクル文化センター周辺まちづくり協議会を結成し、1年がかりで手づくりの忠生地域まちづくり「バリューアッププラン」を策定し、2015年3月に要望しました。

この忠生地域まちづくり「バリューアッププラン」は、地域の自然環境を活かしながら「健康・交流のまち」をめざすものです。

プランの地域再生の方向としては、拠点施設を活用して、町田リサイクル文化センター西側の最終処分場、旧埋立地及び現焼却施設の跡地の各種競技スポーツ公園や自転車教習の交通公園の設置、室内プール駐車場・健康増進温浴施設の設置、これらの跡地等に地域コミュニティ交流と防災機能の施設の設置、多摩都市モノレール延伸ルート上に農業振興はじめ多機能で進化する道の駅の設置などです。

また、施設整備だけでなく、自然資源を活用したネットワークの強化として、スポーツ公園等の拠点施設整備と結んで、豊かな自然環境を活かし尾根緑道や周辺主要道路の整備によるウォーキング、ジョギング、サイクリングコース、散策ルートなど回遊ネットワークの構築があります。これらコース整備の充実によって、マラソンやトライアスロン競技の実施などもより魅

力的なものになると期待されます。

また、この回遊ネットワークの構築と新交通網の駅などを結ぶコミュニティサイクル・レンタサイクル事業の開始も含まれています。

総合スポーツ公園の空間・機能イメージ

7



一方、忠生地域は、都心から30キロ圏にありながら交通の利便が立ち遅れていましたが、今、新交通網の計画整備が目白押しです。

鉄道では、多摩都市モノレール延伸による各駅、小田急多摩線延伸の（仮称）小山田駅、近接で都県境を越えるリニア中央新幹線開通の東京の西玄関口・橋本駅があります。2027年開通（品川駅までの所要時間は7分、名古屋駅まで33分、2037年には大阪駅まで60分！）多くの乗降客を見込み京王相模原線も都内との時間短縮が予定されます。

道路でも南多摩尾根幹線や多摩ニュータウン通りの橋本方面延伸、バスでは路線バス乗り継ぎ拠点やコミュニティバスの運行などの整備計画があります。

忠生地域は、この忠生地域まちづくり「バリューアッププラン」の実現と鉄道整備プロジェクトなど新交通網の利便性向上によって、豊かな自然環境と多くの人が集い住む、生活と調和・共生できる、より質の高い魅力あるエリアが形成されそうです。そして、少子高齢化社会や人口減少化社会の中で、市のまちづくり目標に定める賑わいや子育て環境の充実施策は、きっと本地域の「若者層の定住の促進」などの形で叶えられると期待されます。

編集委員 守屋 和夫



町田市町内会・自治会連合会発行の「連合会だより」の内容や記事についてご意見をお寄せ下さい。